

平成26年第4回西之表市議会定例会

【所信表明並びに提案理由説明】

[平成26年11月26日午前10時]

西 之 表 市

おはようございます。

本日ここに平成26年第4回西之表市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

立冬を迎えましたが、温かく過ごしやすい天気が続いております。この1年、内外ともに様々な出来事がありましたが、年を締めくくるに当たり、穏やかな年末を迎えられるよう祈念しておりましたところ、突然の衆議院解散が決まり、一転あわただしい年末を迎えることになりそうであります。順調とみられておりましたアベノミクス改革が、国民総生産の2期連続マイナス成長という結果を受け、消費税増税どころか足元の経済が相当減速しているということが鮮明になりました。異次元の金融緩和や円安により、企業収益及び株式市場は活況を呈しておりますが、風が吹けば桶屋^{おけや}が儲かるというトリクルダウン理論が消費者までに届くタイムラグがいつなのか、また、法人税率の緩和と外形標準課税の強化という仕組みでは、強者はより強く、弱者はより弱くなるのではないかとの見方もありますが、いずれにしましても、景気に及ぼす6割のウェイトを持つといわれる消費者の経済的浮揚が図られない限り、本当の意味の経済

成長は見込めないのではないかと考えます。本定例会中にその方向性が決まることとなりますが、投票率が低迷しているという現状から、市民の皆様には、それぞれの意思表示をお願いしたいと考えております。

11月18日から21日にかけて、国をはじめ各種団体への要望活動を行ってまいりました。解散風が吹きすさぶ中の要請活動となりましたが、18日には、熊毛地域の首長、議長と共に、米軍空母艦載機離着陸訓練施設で行うFCLPの馬毛島移転問題について、防衛省に要請を行いました。沖縄普天間、辺野古、そして広島岩国とも絡む複雑な事柄ではありますが、馬毛島問題は、地域づくりの問題でもあります。我々は、子孫に課題を残さぬよう、誤りのない選択をしなければなりません。この島に住み続けられるような環境を子孫に残すため、政府には、明確に反対の意思を伝え続けたいと思います。

翌、19日は、全国離島振興協議会が主管する平成27年度離島関係予算の国への要望活動を行ってまいりました。

農業基盤整備、空港・港湾、社会資本総合整備、離島ガソリン、再生可能エネルギー、過疎・辺地対策事業債など、離島振興に関わ

る重点要望事項について、各省庁を回り、離島の極めて厳しい状況を訴えてまいりました。国の予算編成の動向を注視しながら、全国市長会とも連携を図り、引き続き要請活動を重ねてまいります。

また、同日は、鹿児島県企業立地懇話会にも出席し、本市の立地環境や誘致策について、参加企業の皆様に説明を行ってまいりました。関東地区の幅広い業種から100名を超える方々が参加しており、安納いもを中心とした本市の魅力とともに、企業誘致の意欲をお伝えしてまいりました。さらに、伊藤県知事も出席された交流会においても、今後の企業誘致へと繋げるため、本市のブースを設置し、新たな人脈づくりに取り組んできたところであります。

20日から21日にかけては、種子屋久観光連絡協議会の関係者で、日本航空、商船三井、郵船クルーズ等の航空・船舶各社をそれぞれ訪問し、接続便の改善や寄港回数を増やしていただくよう要請活動を行ってまいりました。今年10月には、郵船クルーズの飛鳥Ⅱが2度とも入港できないという状況になり、今後の誘致に大きな影響があると懸念しております。また、寄港準備を進めていただいた関係者の皆様の落胆も大きなものがあると心配しております。これまでも機会あるごとに市民の皆様呼びかけている事ではありま

すが、重ねてお願いしたいと思います。数百人規模の観光客を誘致するには、並大抵の努力では実現できないものです。来島する方々が気持ちよく滞在され、種子・屋久の魅力を実感し、宣伝していただけるような取り組みを、地元が一体となって行う必要があると考えております。そして、地域の魅力をもっともっと高める必要もあると思います。観光に携わる者だけではなく、大勢の市民の皆様が来島される方々に目を向けていただき、入港と出港時の出迎え、見送りなどにご参加いただき、観光面に一役買っていただければ有難いと思うところです。

次に、9月定例会後の主な出来事並びに今後予定されている行事等について申し上げます。

観光面では、10月14日から16日にかけて、広島市立舟入高等学校が民泊型修学旅行で来島し、総勢317名、本市においては177名の民泊受入れを行ったところであります。12月には新潟県立燕中等教育学校約80名、本市受入約40名を予定しているところです。4月に受入れをした東京都お茶の水女子大学付属高等学校を含めると、本年度、種子島内で、受入れ3校、生徒約500名を予定しており、本格的な受入れは始まったばかりでありま

すが、関係機関と連携を取りながら、新たな分野で交流を促進していきたいと考えております。

10月19日から29日にかけて、4回目となる「くろしお芸術祭」が開催され、西之表港から商店街にかけて廃材を利用した色とりどりのオブジェや金属製の作品の展示、ユニークな壁画が作成され、街並みに新たな景観が加えられました。今年は、地元工芸家や飲食店が協賛して「食品工芸フェア」も同時開催され、普段あまり慣れ親しみのない工芸体験などを通して多くの市民の方々に賑わってまいりました。行政としても賑わいの創出に向けて様々な検討を加えているところであり、共に知恵を出し、手を取り合って活性化に取り組めたらと期待しているところであります。

次に、第43回市民文化祭が11月1日、2日の2日間にわたり開催され、来年秋に開催されます第30回国民文化祭かごしま2015の本市主催事業であります「華道の祭典in種子島」のイベントとして「いけばな展」も同時開催されました。

鹿児島県連合華道会の協力のもと、鹿児島を代表する17流派の作品及び種子島の華道関係者による作品が一同に並び、迫力ある展示となりました。2日には、「いけばな体感教室」も開かれ、子ども

もから大人まで多くの来場者が生け花を体験され、来年度の本開催に向けて弾みをつけるイベントとなりました。

来年は、市民体育館に今年以上の大作が並びます。島内外から多くの方々に来場いただき、華道のすばらしさに触れていただきたいと思います。

11月9日には、第22回種子島鉄砲村商工フェスティバルが青果市場で開催され、種子島飲食店振興会が新たに考案した「種子島ロケット串」が、今年のH²ロケットによる「はやぶさ2」の打ち上げを控えた地元の盛り上がりとして多くのメディアの注目を集めました。その打ち上げが、今月30日に迫っております。9月時点で既に宿泊施設が満室になるという人気ぶりであり、ロケットビジネスの活用について、もっと力を注ぐ必要があると思っております。宇宙誕生の解明に挑戦する科学者の皆様の飽くなき探求心に賞賛を送るとともに、「はやぶさ2」の無事の帰還を祈りたいと思います。

「はやぶさ2」の帰還は、順調に飛行すると東京オリンピックの開催年と重なります。どのようなドラマが展開されるのか楽しみに打ち上げを見守りたいと思います。

次に、11月30日、西町・東町・洲之崎及び下西校区合同の津

波避難訓練を実施する予定としております。これまでで最も大きな避難訓練になります。これまでの反省と成果を生かしながら、参加される住民ひとりひとりが自らの命を守る行動として、避難道路や危険箇所の確認、高齢者への支援のあり方など、万一の行動が迅速にできるよう点検していただければと思います。多くの住民の参加をお願いしたいと思います。なお、南海トラフ巨大地震について、先般、津波浸水地域の想定が鹿児島県から示されました。最大津波高に変更はありませんが、市街地における浸水高が、3乃至4メートルとこれまでより低く設定されていますが、浸水することによりはありませぬ、危機意識が薄れないよう、今後も繰り返し、訓練を実施してまいります。いつ発生するかわからない地震・津波であり、今回想定の種子島東方沖地震は、津波到達時間が11分と短く、津波高も5.83メートルと高く想定されていることから、市民の皆様には、即時に対応できるよう、自分の安全は自分で守ることを基本に、普段から十分な備えをしていただくことをお願いするところです。

次に、5月30日に企業立地協定を締結した株式会社西川グループが、下西校区に建設しているレクストン種子島が12月12日オ

オープン予定であり、内覧会等が催されることとなっております。本市の懸案事項である地元雇用機会の拡充が図られるのをはじめ、スポーツ合宿にも注力したいとの考えを伺っており、本市の観光振興への貢献も期待されるところです。新たな産業振興の形が実現できるよう、行政としても支援してまいりたいと考えております。

次に、農業関係についてであります。

本市の農作物は、秋から春先にかけて本格的な作物の収穫の時期を迎えるわけですが、基幹作物であります本年産さとうきびは、来月12日から操業が開始され、明けて4月15日まで工場への持ち込みが行われることになりました。種子島全体では2,703ヘクタール栽培されておりますが、本年は春先の低温、日照不足、大雨や相次ぐ台風の影響を受け、反収で5,958キログラムと低く、11月15日現在の糖度も13.1と平年の8割程度と、農家の皆さんにとっては、大変厳しい年となりそうであります。

また、10月中旬から操業が開始されましたでんぷん用甘藷については、本年は295ヘクタール栽培されておりますが、予想反収が53俵で前年度と比べ1割以上減収となる見込みであり、安納いもを主とする青果用甘藷についても、出荷途中ではありますが平年

を下回る予測がされております。

今年にはエルニーニョ現象による気象変動が取りざたされていましたが、改めて、如何ともしがたい気象の影響を恨めしく思うことのでございます。市といたしましても、プロジェクト108を中心に、関係機関、生産者とともに早急な立て直しを図ってまいりたいと考えております。

さて、平成26年度も第3四半期を迎え、この1年の行政の成果が明らかになるとともに、平成27年度に向けた準備が始まっております。国の予算編成は、越年することになりますが、本市の課題は明白であり、これに対応する様々な工夫が必要とされております。新年度の予算編成に当たっては、より一層行政サービスが効率的かつ効果的に市民に届けられることを念頭に、事務事業や組織機構の見直しを進めてまいりたいと考えております。また、決算特別委員会等の要望事項も含め、盛り込むべき案件について、検討を加えてまいりますので、今後とも議員各位のご理解とご協力を賜りたいと考えます。

それでは、本定例議会に提案いたしました議案について、ご説明いたします。

本定例議会に提案いたしました議案は、西之表市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例など条例改正議案3件、人事院勧告に基づく予算関係議案6件、公の施設の指定管理者の指定議案3件、西之表市一般会計補正予算（第5号）など予算関係議案6件、鹿児島県市町村総合組合の規約変更議案1件の合計19件であります。

なお、28日に1件、追加議案を提出予定としておりますので、併せてご審議いただきますようお願い申し上げます。

主な議案につきましてご説明いたします。

議案第62号は、7年ぶりに給料及びボーナスの引き上げが勧告されました人事院及び鹿児島県人事委員会の改定を参考に、給与条例の一部を改正するものであります。

議案第63号から第68号は、給与条例の一部改正を受け、一般会計及び各特別会計における人件費を予算計上するものです。なお、一般会計には、平成26年12月14日に投開票されます、衆議院議員選挙及び最高裁判所裁判官の国民審査に係る経費も合わせて計上しております。

議案第63号は、平成26年度西之表市一般会計補正予算第4号

であります。歳入歳出予算の総額に9億4,140万円を追加し、予算総額を10億1,663万1千円とするものです。

衆議院議員選挙費、9億4,360万円、国の人事院勧告など諸般の状況を考慮し、人件費を追加しようとするものであります。

議案第69号は、第5次西之表市長期振興計画後期基本計画を推進するため、組織の一部を変更しようとするものであります。

議案第72号から74号は、公の施設の指定管理者の指定を行うもので、西之表市かもめ児童館及び美浜児童センター、西之表市老人福祉センター及び西之表市指定文化財種子島家住宅の各施設について、管理・運営を委託するものです。

議案第75号から第80号は、平成26年度西之表市一般会計及び特別会計並びに水道事業会計の補正予算であります。

議案第75号は、平成26年度西之表市一般会計補正予算第5号であります。歳入歳出予算の総額に10億6,253万9千円を追加し、予算総額を11億2,317万円とするものです。

本予算の主なものについてご説明いたします。歳入では、湊漁港の災害復旧工事などに関し、国庫負担金で7億3,969千円、種子島広域事務組合負担金清算返納金やグリーンプラン・パートナ

一シツプ事業助成金など雑入で2千4百13万1千円、汚泥再生処理センター及び湊漁港災害復旧事業など市債で2億9千3百50万円をそれぞれ追加しています。

歳出では、退職者の増加に伴い、一般管理費で3千27万2千円、財源調整で財産管理費に4千3百71万1千円の追加、園児数が見込みより少なくなったことにより児童措置費で、1千1百78万6千円の減額、湊漁港をはじめ河川1件、道路7件の災害復旧工事などによる現年発生補助災害復旧費9億3千66万7千円の追加がその主なものであります。特に湊漁港は繰越施工中でありましたが、再度大きく被災したため、改めて水産庁との工法協議が必要となっております。

議員各位のご審議をお願い申し上げまして、所信表明及び提案理由の説明といたします。